

平成 2 0 年 度

公立大学法人 業務実績評価書

平成 2 1 年 8 月

福岡県公立大学法人評価委員会

目 次

年度評価の考え方	-----	1 ページ
各法人の評価		
1 公立大学法人九州歯科大学		
(1) 全体評価	-----	2 ページ
(2) 項目別評価	-----	3 ページ
2 公立大学法人福岡女子大学		
(1) 全体評価	-----	9 ページ
(2) 項目別評価	-----	10 ページ
3 公立大学法人福岡県立大学		
(1) 全体評価	-----	15 ページ
(2) 項目別評価	-----	16 ページ

年度評価の考え方

1 項目別評価（中期目標項目別評価）

評価委員会は、法人から提出された業務実績報告書等を基に、業務の実績等について調査・分析を行う。

これらの調査・分析を踏まえ、中期目標の項目（教育、研究、社会貢献、業務運営、財務、評価、情報公開）ごとに、中期目標・中期計画の達成に向けた業務の進捗状況及び特記事項の内容を総合的に勘案して、5段階で評価する。

- 5：中期目標・中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある。
- 4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
- 3：中期目標・中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる。
- 2：中期目標・中期計画の達成のためにはやや遅れている。
- 1：中期目標・中期計画の達成のためには重大な改善事項がある。

2 全体評価

項目別評価を踏まえ、中期目標・中期計画の進捗状況全体を総合的に評価する。評価は、業務の実施状況、財務状況、法人のマネジメントの観点から、記述式で行う。

組織や業務運営等に係る改善すべき事項があれば記載する。

※ 評価委員会の評価は、各法人が中期計画において設定した業務実施の計画や達成目標等を踏まえて行なったものであり、法人間の相対評価をしめすものではない。

公立大学法人九州歯科大学

I 全体評価

1 総評

公立大学法人九州歯科大学は、設立団体である福岡県が定めた中期目標において、先端的な歯科医療の知識・技術を教授するとともに、高齢者の治療や健康管理指導ができる能力、患者の痛みを理解し、円滑な意思疎通ができる能力を身に付けた優秀な歯科医師を育成することを最も重要な使命としている。

法人化3年目である平成20年度の評価にあたっては、前年度の評価において指摘した事項の改善状況を確認するとともに、これまでの業務実績も踏まえ、中期計画の達成に向け、年度計画を着実に実施しているかという視点から、当該年度の業務実績評価を実施した。

評価の結果、中期目標項目7項目中6項目（教育、研究、業務運営、財務、評価、情報公開）について「順調に進んでいる」又は「おおむね順調に進んでいる」と評定、1項目（社会貢献）について「やや遅れている」と評定した。

以上のことを踏まえ、公立大学法人九州歯科大学の平成20年度の業務実績については、中期目標・中期計画の達成に向けて、全体としてはおおむね順調に進捗していると認められる。

なお、今年度は中期目標期間の中間点にあたる。これまでの業務実績の分析・評価結果を、今後の中期目標の着実な達成に向けて十分に活用されたい。

歯科医療の高度化や高齢化社会の進展など、歯科保健医療を取り巻く環境や社会的ニーズが変化する中で、全国的に歯学部志願者が減少している。このような状況を踏まえ、県立の大学としての役割を改めて検証し、教育・研究はもとより社会貢献の充実・改善に向けた取組を更に推進されることを期待する。

2 業務の実施状況

教育、研究、社会貢献に関する業務の実施状況については、社会貢献に関してやや遅れが認められるものの、おおむね順調に進捗している。

教育について、素養教育の充実や臨床実習システムの改編等、優秀な歯科医師の育成に努めている。これらの取組が今後着実な成

果として現れることを期待する。

なお、歯科医師国家試験合格率が低下しており、早急な対応が必要である。

社会貢献については、診療所からの患者紹介率が向上しており、取組の成果として評価するが、リカレント教育や市民公開講座の開催に進捗の遅れがあり、社会貢献全体としては進捗にやや遅れがあると判断した。今後、年度計画の着実な実施に向け、一層の取組が必要である。

なお、高齢化社会の進展に対する取組として、高齢者を対象とした地域での歯科保健医療活動を実施するなど、公立の大学として、社会貢献に関するより積極的な事業の展開を期待する。

3 財務状況

財務の状況については、附属病院経営改善の取組において、一部計画の遅れが認められるものの、全体としては、おおむね順調に進捗している。

附属病院については、摂食機能リハビリテーション科の収入額及び訪問診療件数が増加しており、取組の成果として評価するが、患者ニーズの把握など進捗に遅れがあるものについて、一層の取組が必要である。

財務運営にあたっては、今後ともより一層の経営努力に努めるとともに、適切な予算管理と戦略的・効果的な予算配分を推進されたい。特に、支出の大部分を占める人件費については、教育研究の質の向上に配慮しつつ節減への努力を続けられたい。

4 法人のマネジメント

業務運営、評価、情報公開といった法人のマネジメントの状況については、おおむね順調に進捗している。

法人化3年目となり、各種事業において成果をあげてきているところであるが、今後、中期目標の着実な達成に向け、法人全体の運営戦略を担う事務局の役割がますます重要になってくるものと思料する。

今後とも、事務局機能の強化に努めるとともに、運営体制の改善、適切な評価の実施、情報公開の推進により一層取り組まれたい。

II 項目別評価（中期目標項目別評価）

1 教育

評価	3 : 中期目標・中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる。
----	-----------------------------------

平成20年度の業務実績については、進捗が遅れている項目も認められるが、全体的にはおおむね計画どおり進捗していることから、総合的に判断し、3と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

(1) 地域の発展に貢献する歯科医師の育成

- ・ 選択科目を充実するなど、学生の学習意欲を高める素養教育の充実に努めている。なお、素養教育充実の観点から、学生による授業評価は、専任教員が担当する科目のみでなく、全ての授業科目を対象として実施されたい。
- ・ 専門医療及び先進医療に関する臨床実習の増加を図るなど、臨床実習システムの改編に積極的に取り組んでいる。
- ・ 歯科医師国家試験合格率が全国29大学中19位と大幅に低下（19年度11位）しており、早急に原因分析と対策に取り組む必要がある。

(2) 適性のある優秀な人材の確保・育成

- ・ AO入試（※）を導入するなど、高い志を持った優秀な学生の確保に努めている。
- ・ 広報活動の充実に努めており、オープンキャンパスの参加者数や高校訪問数等が増加している。

※ AO入試（アドミッション・オフィス入試）

詳細な書類審査と時間をかけた丁寧な面接等を組み合わせることによって、入学志願者の能力・適性や学習に対する意欲、目的意識等を総合的に判定する方法。

(3) 教育の質の改善

- ・ FD活動（※）への教員参加率が向上していることは評価されるが、学生による授業評価が全般的に低く、より効果的なFDの実施が望まれる。

※ FD（ファカルティ・ディベロップメント）

教員が授業内容・方法を改善し、向上させるための組織的な取組の総称。

（４）学生への支援

・「なんでも相談室」の設置や教育・教務関係の情報提供等、学生支援の充実に努めている。

2 研究

評価	4 : 中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-------------------------------

平成20年度の業務実績については、年度計画を着実に実施し目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

- ・論文数、学会発表数及び特許・実用新案権件数が増加しており、取組の成果として評価する。特に外部研究資金の獲得件数が大幅に増加しており、高く評価する。
- ・産学連携フェアで歯学に関する新技術を出展するなど、産学官連携の推進に努めている。

3 社会貢献

評価	2 : 中期目標・中期計画の達成のためにはやや遅れている。
----	-------------------------------

平成20年度の業務実績については、社会貢献の主要な事業として計画している e-learning を活用したリカレント教育の進捗に遅れがあること等から、2と評価する。

今後は、学外利用者のニーズ把握を行うなど、事業推進への一層の取組が必要である。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

- ・ e-learning を活用したリカレント教育が依然として学内での準備段階にあり、進捗が遅れている。
- ・ 新たに作成した病診連携（病院と診療所が連携して症状に応じた医療を提供すること）パンフレットの配布等により、診療所からの患者紹介率が向上しており、取組の成果として評価する。
- ・ 研究成果の発表について、市民公開講座の開催に至っておらず、取組が遅れている。

4 業務運営

評価	4 : 中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-------------------------------

平成20年度の業務実績については、年度計画を着実に実施し目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

- ・ 学長競争枠研究費の若手研究者への配分、事務分担の見直し等による事務処理の効率化・強化、任期制実施、教員個人業績評価の実施・改善等、運営体制の改善と人事の適正化に努めている。
- ・ 附属病院における事故防止のための委員会活動の実施等、安全管理体制の充実に努めている。

5 財務

評価	3 : 中期目標・中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる。
----	-----------------------------------

平成20年度の業務実績については、進捗が遅れている項目も認められるが、患者紹介率の向上による診療報酬の確保や外部研究資金の収入増を評価し、総合的に判断し、3と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

- ・患者紹介率の向上による診療報酬の確保や外部研究資金の収入増により、数値目標を上回る実績をあげている。特に外部研究資金については、大幅に上回っており高く評価する。
- ・病院事務の外部委託や業務内容の見直しによる時間外勤務手当の削減等、人件費抑制に努めた結果、数値目標を上回る実績をあげている。
- ・摂食機能リハビリテーション科において19年度に比べ患者数、収入が増加している。また、他病院との連携強化により訪問診療件数も倍増しており、取組の成果として評価する。
- ・患者ニーズの把握のための地域住民との懇談会が未だ開催に至っていない。また、ボランティアの受入、口腔健診業務の新規開拓、クリティカル・パス（※）の導入に係る全診療科共通のマニュアル作成について、その進捗が遅れている。

※ クリティカル・パス

一定の疾患や疾病を持つ患者に対して入院指導、患者オリエンテーション、ケア処置、検査、退院指導などをまとめた医療のスケジュール表。

6 評価

評価	4 : 中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-------------------------------

平成20年度の業務実績については、年度計画を着実に実施し目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

- ・個人業績評価に「同僚による授業評価」を反映させるなど、その実施と改善に努めている。
- ・自己点検・評価については、19年度の業務実績評価においても指摘していたところであるが、全般的に自己評価が高いと判断されるものが多く認められる。改めて評価する点、課題とする点を明確にし、よりの確な評価の実施に努められたい。

7 情報公開

評価	3 : 中期目標・中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる。
----	-----------------------------------

平成20年度の業務実績については、進捗が遅れている項目も認められるが、全体的にはおおむね計画どおり進捗していることから、総合的に判断し、3と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

- ・ ホームページの稼働実態の把握や附属病院情報の拡充が遅れている。
- ・ 個人情報保護及び情報公開に関する研修会を実施するなど、個人情報保護に関する職員の意識向上に努めている。

公立大学法人福岡女子大学

I 全体評価

1 総評

公立大学法人福岡女子大学は、設立団体である福岡県が定めた中期目標において、職場、家庭、地域など社会の様々な分野において重要な役割を担うことができる優秀な女性を育成することを最も重要な使命としている。

法人化3年目である平成20年度の評価にあたっては、前年度の評価において指摘した事項の改善状況を確認するとともに、これまでの業務実績も踏まえ、中期計画の達成に向け、年度計画を着実に実施しているかという視点から、当該年度の業務実績評価を実施した。

評価の結果、中期目標項目7項目（教育、研究、社会貢献、業務運営、財務、評価、情報公開）について「順調に進んでいる」又は「おおむね順調に進んでいる」と評定した。

以上のことを踏まえ、公立大学法人福岡女子大学の平成20年度の業務実績については、中期目標・中期計画の達成に向けて、全体としてはおおむね順調に進捗していると認められる。

なお、今年度は中期目標期間の中間点にあたる。これまでの業務実績の分析・評価結果を、今後の中期目標の着実な達成に向けて十分に活用されたい。

福岡女子大学については、現在、新学部開設に向けて抜本的な改革に取り組んでいるところである。大学を取り巻く社会環境が一層厳しさを増していくことが予想される中、将来にわたって県民の期待に応えられる大学として発展できるよう、実効性の高い改革を進められることを期待する。

2 業務の実施状況

教育、研究、社会貢献に関する業務の実施状況については、おおむね順調に進捗している。

教育について、英語総合能力の強化、管理栄養士等資格取得の向上のための取組等、学生の資質の向上に努めている。

また、九州大学、西南学院大学と三大学の連携協力に関する基本協定を締結しており、今後の教育・研究等の充実・改善に向けた取組を期待する。

なお、大学改革について、現体制でも実施可能なものについては積極的に取り組まれない。

3 財務状況

財務の状況については、自己収入の増加、経費の節減の双方の取組において、順調に進捗している。

財務運営にあたっては、今後ともより一層の経営努力に努めるとともに、適切な予算管理と戦略的・効果的な予算配分を推進されたい。特に、支出の大部分を占める人件費については、教育研究の質の向上に配慮しつつ節減への努力を続けられたい。

4 法人のマネジメント

業務運営、評価、情報公開といった法人のマネジメントの状況については、おおむね順調に進捗している。

法人化3年目となり、各種事業において成果をあげてきているところであるが、今後、中期目標の着実な達成に向け、法人全体の運営戦略を担う事務局の役割がますます重要になってくるものと思料する。

今後とも、事務局機能の強化に努めるとともに、運営体制の改善、適切な評価の実施、情報公開の推進により一層取り組まれない。

II 項目別評価（中期目標項目別評価）

1 教育

評価	3 : 中期目標・中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる。
----	-----------------------------------

平成20年度の業務実績については、進捗が遅れている項目も認められるが、全体的にはおおむね計画どおり進捗していることから、総合的に判断し、3と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

(1) 教養教育

- ・「TOEIC強化補習」により取得点数の向上に努めているが、英文学科で数値目標を下回る結果となっており、より一層の工夫・改善を期待する。

- ・ボランティア活動に対する単位認定について、全学的な導入に向けての検討が遅れている。

(2) 専門教育

- ・人間環境学部において、管理栄養士国家試験対策講座の実施等、資格取得の向上に努めている。

(3) 大学院教育

- ・四大学（福岡工業大学、九州大学、西南学院大学、福岡女子大学）が連携した「国公立大コンソーシアム・福岡」に参画したところであり、教育内容の充実・改善に向けた今後の取組を期待する。

(4) 教員の教育能力の向上

- ・学生に対する授業アンケート結果の活用に係る検討・改善が遅れている。

(5) 優秀な学生の確保

- ・入試広報活動への取組は認められるものの、志願者数及び受験者数が数値目標を下回っており、より一層の取組が必要である。

(6) 成績評価

- ・GPA制度（※）の導入と併せ成績基準を見直すなど、学生の質の向上に努めている。今後のGPA制度の活用と成果に期待する。

※ GPA制度（GPA＝グレード・ポイント・アベレージ）

授業科目ごとの成績評価を5段階（A,B,C,D,E）で評価し、それぞれに対して、4,3,2,1,0 のグレード・ポイントを付与し、この単位あたり平均を出して、その一定水準を卒業等の要件とする制度。

(7) 学習及び就職支援体制の整備

- ・補習授業の実施、教職員による企業訪問、既卒者（未就職者）に対する就職斡旋等、学生に対する支援に努めている。

(8) 大学改革の推進

- ・学内に検討組織を設置し、県と連携して大学改革の具体化を進めている。

2 研究

評価	3 : 中期目標・中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる。
----	-----------------------------------

平成20年度の業務実績については、進捗が遅れている項目も認められるが、全体的にはおおむね計画どおり進捗していることから、総合的に判断し、3と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

- ・学外の研究機関との研究交流や産学官連携の推進等に努めている。
- ・論文数、学会発表数が19年度実績と比して減少しており、研究活動の活性化に向けた一層の取組が必要である。

3 社会貢献

評価	3 : 中期目標・中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる。
----	-----------------------------------

平成20年度の業務実績については、進捗が遅れている項目も認められるが、中期計画外の取組である「福岡発食育&食環境整備ネットワーク」の取組を評価し、総合的に判断し、3と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

- ・人材バンクについては、今後、地域の要請に応えられる活動を積極的に展開していくことが必要である。
- ・福岡女子大学が主体となる、産学官連携組織「福岡発食育&食環境整備ネットワーク」の事業が農林水産省の平成20年度「にっぽん食育推進事業」に選定され、教員と学生が連携して食事バランスガイドの普及や食育の推進に取り組んでいる。
- ・国際交流の推進については、大学改革の重要な課題であり、海外大学との提携拡大を図るなど、福岡県のネットワーク等を活用

して、特にアジアをはじめとした国々との交流や国際化に向けた事業を積極的に展開されたい。

4 業務運営

評価	3 : 中期目標・中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる。
----	-----------------------------------

平成20年度の業務実績については、進捗が遅れている項目も認められるが、全体的にはおおむね計画どおり進捗していることから、総合的に判断し、3と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

- ・外部委託や嘱託職員の活用による事務局機能の効率化・強化、任期制実施、教員個人業績評価の実施・改善等により、運営体制の改善と人事の適正化に努めている。
- ・安全衛生状況の点検・改善については、実施内容の質の向上を図ることが必要である。

5 財務

評価	4 : 中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-------------------------------

平成20年度の業務実績については、年度計画を着実に実施し目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

- ・外部研究資金に加え、教育等に関する外部資金の獲得により、数値目標を大幅に上回る収入実績をあげており、高く評価する。
- ・非常勤講師の活用等により人件費抑制に努め、また、宅配便やメール便の活用により通信運搬費の節減に努めた結果、それぞれについて数値目標を上回る実績をあげている。

6 評価

評価	4 : 中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-------------------------------

平成20年度の業務実績については、年度計画を着実に実施し目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

- ・自己点検・評価及び個人業績評価の実施と改善に努めている。

7 情報公開

評価	4 : 中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-------------------------------

平成20年度の業務実績については、年度計画を着実に実施し目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

- ・国際交流センターの英文パンフレットの作成や個人情報保護に関する講習会の実施等、情報公開の推進に努めている。

公立大学法人福岡県立大学

I 全体評価

1 総評

公立大学法人福岡県立大学は、設立団体である福岡県が定めた中期目標において、人間社会学部と看護学部の連携のもと、関連する分野に関する幅広い視野を持ち、保健・医療・福祉の現場で中核となって活躍できる資質をもった優秀な職業人を育成することを最も重要な使命としている。

法人化3年目である平成20年度の評価にあたっては、前年度の評価において指摘した事項の改善状況を確認するとともに、これまでの業務実績も踏まえ、中期計画の達成に向け、年度計画を着実に実施しているかという視点から、当該年度の業務実績評価を実施した。

評価の結果、中期目標項目7項目中1項目（社会貢献）について、「特筆すべき進捗状況にある」と評定、他の6項目（教育、研究、業務運営、財務、評価、情報公開）について「順調に進んでいる」又は「おおむね順調に進んでいる」と評定した。

以上のことを踏まえ、公立大学法人福岡県立大学の平成20年度の業務実績については、中期目標・中期計画の達成に向けて、全体としてはおおむね順調に進捗していると認められる。

なお、今年度は中期目標期間の中間点にあたる。これまでの業務実績の分析・評価結果を、今後の中期目標の着実な達成に向けて十分に活用されたい。

福岡県立大学は、地域と連携した取組で着実な成果をあげてきており、今年度は特に、社会貢献に関して年度計画を上回る取組等が多数認められたところであり、特筆に値する。今後とも地域との連携のもと社会貢献活動等に積極的に取り組むとともに、県立の大学としての役割を踏まえ、教育・研究をはじめとした業務の充実・改善に向けた取組を更に推進されることを期待する。

2 業務の実施状況

教育、研究、社会貢献に関する業務の実施状況については、おおむね順調に進捗している。

教育について、「不登校・ひきこもりへの援助力養成教育」が、文部科学省の平成20年度「質の高い大学教育推進プログラム（教育GP）」に選定されており、教育内容の充実に積極的に取り組んでいる。

社会貢献については、大学の知的資源を活用した各種の健康教室や資格・免許保持者へのリカレント教育、不登校・ひきこもりサポートセンターにおける相談事業等に積極的に取り組んでおり、高く評価する。

福岡県立大学の特色となる両学部連携についても、一層の進捗が図られるよう、今後とも積極的な取組を期待する。

3 財務状況

財務の状況については、自己収入の増加、経費の節減の双方の取組において、順調に進捗している。

財務運営にあたっては、今後ともより一層の経営努力に努めるとともに、適切な予算管理と戦略的・効果的な予算配分を推進されたい。特に、支出の大部分を占める人件費については、教育研究の質の向上に配慮しつつ節減への努力を続けられたい。

4 法人のマネジメント

業務運営、評価、情報公開といった法人のマネジメントの状況については、順調に進捗している。

法人化3年目となり、各種事業において成果をあげてきているところであるが、今後、中期目標の着実な達成に向け、法人全体の運営戦略を担う事務局の役割がますます重要になってくるものと思料する。

今後とも、事務局機能の強化に努めるとともに、運営体制の改善、適切な評価の実施、情報公開の推進により一層取り組まれたい。

II 項目別評価（中期目標項目別評価）

1 教育

評価	3 : 中期目標・中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる。
----	-----------------------------------

平成20年度の業務実績については、進捗が遅れている項目も認められるが、全体的にはおおむね計画どおり進捗していることから、総合的に判断し、3と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

(1) 教養教育の充実

- ・教養演習について、学生の意見を取り入れたテキストに改訂するとともに、教員や学生に対してその目的・内容・方法の周知徹底を図るなど、教養演習の改善・実施に努めている。

(2) 専門教育の充実

- ・看護学部において、実習施設の拡大、教員と実習先指導者の連携強化、若手教員の実習指導力の向上等、実習教育の充実に積極的に取り組んでいる。
- ・人間社会学部社会学科において、社会調査に関するガイダンスの強化や関連科目の連携強化を図るなど、社会調査士資格取得希望者の資質向上に積極的に取り組んでいる。
- ・他の学部の専門教育を学べる教育プログラムに係る取組は評価されるが、受講者の増加に向けた工夫が必要と思料する。
- ・人間社会学研究科修士課程の受験倍率が目標を下回っており、受験生確保に向けたより一層の取組が必要である。
- ・「不登校・ひきこもりへの援助力養成教育」が、文部科学省の平成20年度「質の高い大学教育推進プログラム（教育GP）」に選定されており、教育内容の充実に積極的に取り組んでいる。

(3) 教員の教育能力の向上

- ・両学部が一体となったFD活動（※）強化への積極的な取組が認められるところであるが、FD研修会等への教員参加率が目標を大幅に下回っており、参加率向上のための工夫が必要である。

※ FD（ファカルティ・ディベロップメント）

教員が授業内容・方法を改善し、向上させるための組織的な取組の総称。

(4) 学生の確保

- ・オープンキャンパス、入試説明会、高校訪問等の入試広報活動について、数値目標を上回って実施しており、また、入試会場として新設した鹿児島会場で当初予定を大幅に上回る志願者を得るなど、質の高い学生の確保に積極的に取り組んでいる。

(5) 成績評価

- ・国家試験の対策強化により、社会福祉士及び19年度に全国平均以下であった看護師、保健師の合格率を向上させている。

(6) 学生への支援

- ・インターンシップ参加者の拡大を図るとともに、各種就職ガイダンスや国家試験対策講座を積極的に実施している。
- ・卒業後の追跡調査について、卒業生のニーズ把握や対策の検討が遅れている。

2 研究

評価	4 : 中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-------------------------------

平成20年度の業務実績については、年度計画を着実に実施し目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

- ・附属研究所において、生涯福祉研究センター（人間社会学部）、ヘルスプロモーション実践研究センター（看護学部）の独自の研究プロジェクトや両学部連携による共同研究プロジェクトに積極的に取り組み、数値目標を上回る実績をあげている。
- ・産学官連携について、新たに福岡県新生活産業創出事業に参加するなど、積極的に取り組み、数値目標を上回る実績をあげている。

3 社会貢献

評価	5 : 中期目標・中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある。
----	-----------------------------------

平成20年度の業務実績については、年度計画を着実に実施するとともに、目標を大幅に上回る取組や中期計画に掲げる事項以外にも社会貢献に関する積極的な取組が多く認められたことから、特筆すべき進捗状況にあると判断し、5と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

- ・大学の知的資源を活用し、地域住民の健康の向上のための各種健康教育事業や資格・免許保持者等に対する講習会、シンポジウム等に積極的に取り組んでいることを高く評価する。また、生涯福祉研究センターにおいて、福祉・教育・健康の相談事業等に積極的に取り組んでいる。
- ・不登校・ひきこもりサポートセンターにおいて、相談件数や学生による県大子どもサポーターの派遣件数が着実に伸びており、また、新たにキャンパス・スクールを開設するなど、積極的に取り組んでいることを高く評価する。
- ・中国・韓国・タイの大学との学術教育交流に積極的に取り組んでいる。
- ・「世界遺産をめざす旧産炭地・田川再生事業」が、内閣官房・内閣府の平成20年度「地方の元気再生事業」に選定されており、田川地域の活性化に積極的に取り組んでいる。
- ・糖尿病看護認定看護師教育課程の認可と併せて看護実践教育センターを設立し、認定看護師の養成を中心とした看護実践教育を実施することとしている。
- ・第28回日本看護科学学会学術集会を開催し、全国から約2,700名の参加を得ている。

4 業務運営

評 価	4 : 中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
-----	-------------------------------

平成20年度の業務実績については、年度計画を着実に実施し目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

- ・看護学部再生マスタープランを作成するなど、看護学部の教育研究組織の再編に積極的に取り組んでいる。
- ・実習事故の防止や感染症予防等、安全管理体制の充実に努めている。

5 財務

評 価	4 : 中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
-----	-------------------------------

平成20年度の業務実績については、年度計画を着実に実施し目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

- ・外部研究資金に加え、教育等に関する外部資金の獲得により、数値目標を大幅に上回る収入実績をあげており、高く評価する。
- ・教員の計画的採用や特任教授の任用等、人件費抑制に努めた結果、数値目標を上回る実績をあげている。

6 評価

評価	4 : 中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-------------------------------

平成20年度の業務実績については、年度計画を着実に実施し目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

- ・自己点検・評価及び個人業績評価の実施と改善に努めている。

7 情報公開

評価	4 : 中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-------------------------------

平成20年度の業務実績については、年度計画を着実に実施し目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

- ・高等学校向けに84講座からなる「出前講座」を組織し、ホームページに掲載するなど、情報公開の推進に努めている。